

第二章

これからの「5年」そして「20年後」の区財政

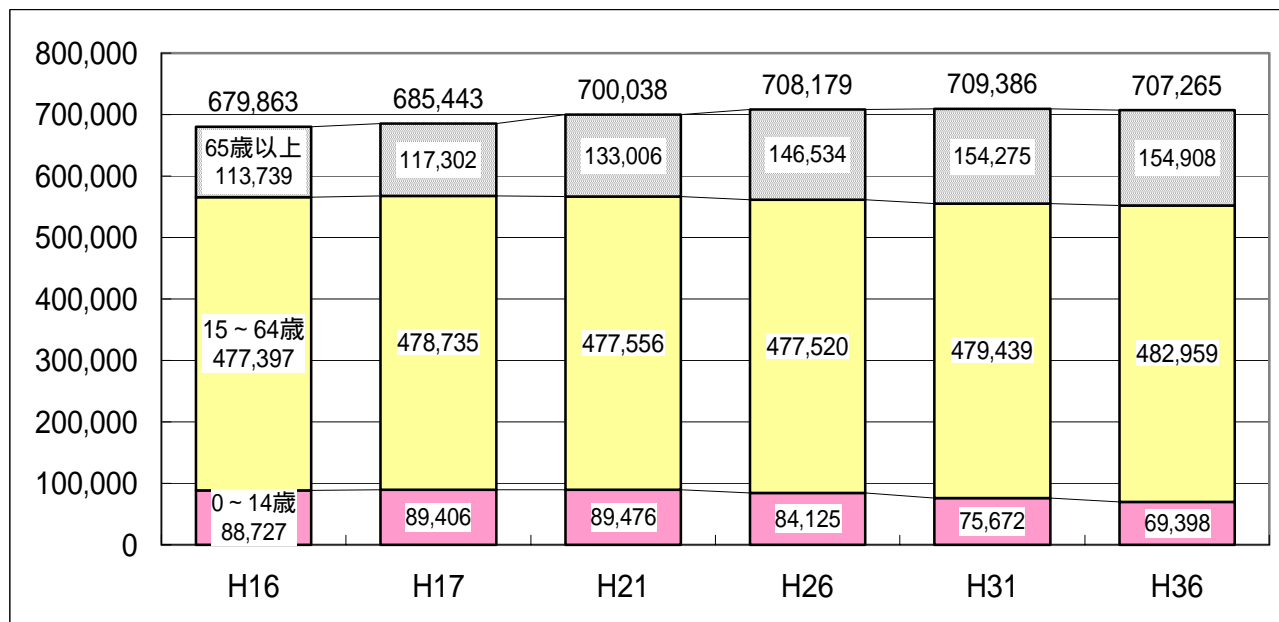
第一章では、「いま」の区財政のお話をしました。この章では、これからの5年、そして20年後の未来を大胆に予想してみました。20年経ったときに、「ああ20年前にこうしておけばよかった！」とならないためにも、未来から見た「いま」を一緒に考えてみませんか。



① 区民(人口)・景気

【5年後の区民と20年後の区民】

(人)



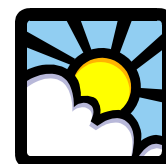
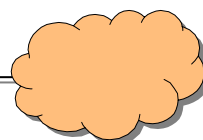
練馬区民の数は、今後しばらくの間は増加していく傾向であると予想されています。人口の構成をみると、今後は子どもが減っていく一方、高齢者が急増していくことも分かります。

【5年後の景気と20年後の景気】

練馬区に限定した景気は、予想が難しいところです。ここでは国の推計を引用してみました。国は、GDP（国内総生産）がおおむね上昇傾向で推移するとしています。これによれば、これまでの不景気が延々と続くことはないこととなります。しかし一方で、人口や産業の構造変化による経済の伸び悩みも危惧されています。

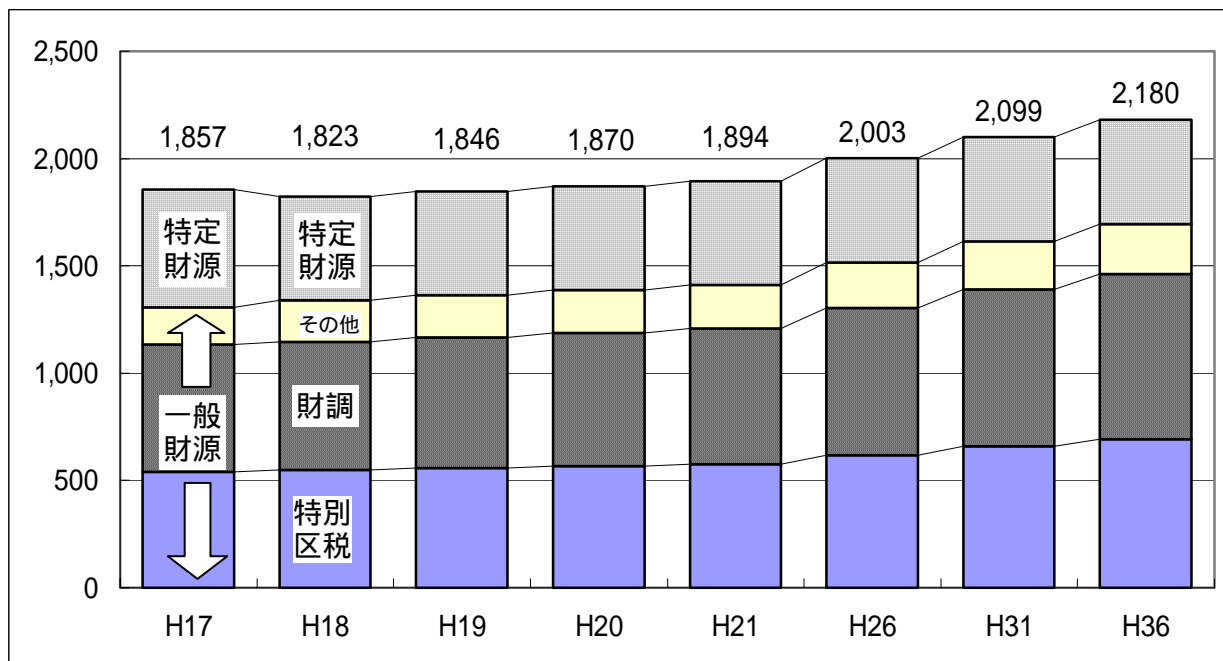
未来の天気予報 ～ 区民・景気 ～

- ・ 区民 少子高齢化が続く。
- ・ 景気 ゆるやかに回復していく？



さて、景気がゆるやかに回復した場合には、区の収入（歳入）は今後どうなるのでしょうか？

練馬区の歳入見通し（推計）
 (億円)



（前提条件）

- ・ 「構造改革と経済財政の中期展望について」（閣議決定）の経済成長率を用いて試算しました。
- ・ 特別区税および財調は、平成 16 年度を基準に 18 年度までは練馬区中期実施計画上の成長率（1.5%）それ以降は上記の閣議決定された経済成長率を用いて試算しました。
- ・ 特定財源は、平成 16 年度を基準に人口推計等を用いて試算しました。使用料や寄付金など、推計が困難なものは伸び率 0% としました。

未来の天気予報 ～歳入～

・ 景気が回復した場合には、区で使い道を決めることができる一般財源は順調に増える。

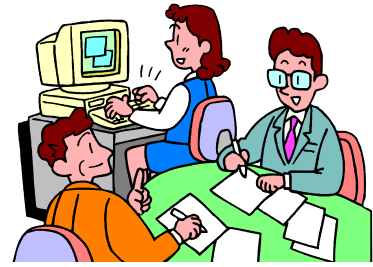


・ 補助金などの使い道が決まっている特定財源は、ほぼ横ばいとなる。

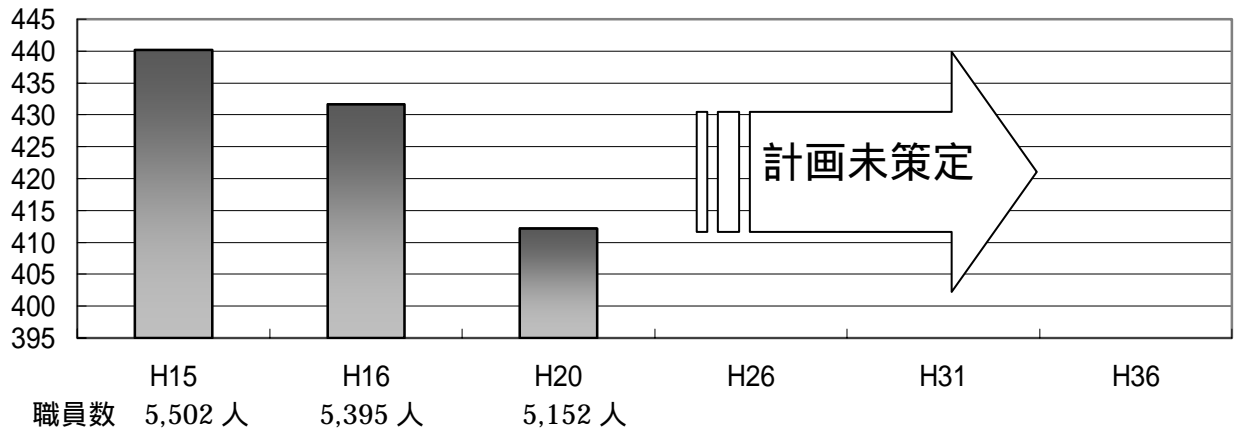
② 義務的経費

【5年後の人件費と20年後の人件費】

職員数は、現行の「職員削減計画」に基づき減っていく見込みです。一方、昭和40年代以降、区のサービスが急拡大したところに採用した職員の退職金が、今後の区財政に大きく影を落とします。



(億円) 職員人件費の推計



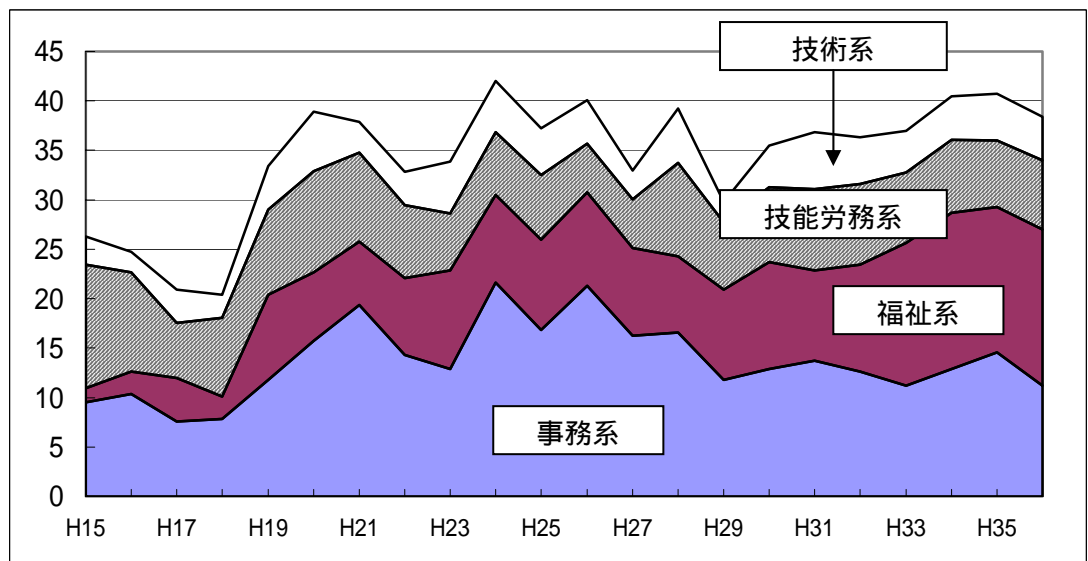
職員数 5,502人 5,395人 5,152人

(現員)

職員1人あたり800万円として算出しました。

上表は、定期昇給やベースアップの影響、退職金などを含みません。

(億円) 退職金(定年退職分)の推計 (P40資料 10参照)



今は年間26億円程度の退職金(定年退職分)が、毎年35~40億にふくらんで...しかもその状態が続くんだ!

清掃職員を除く。

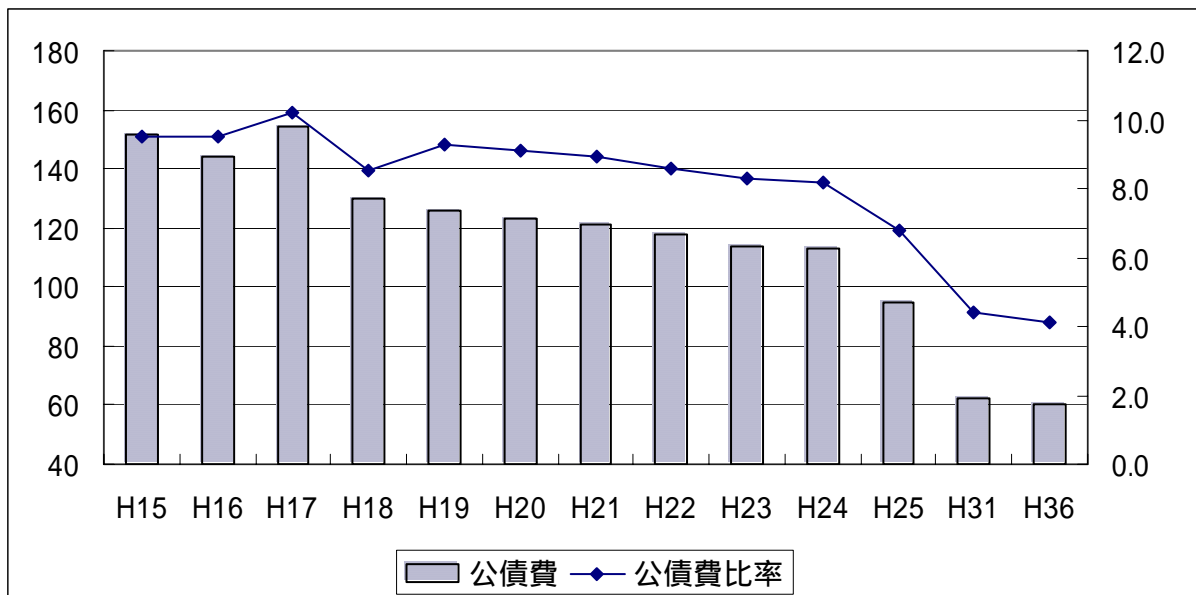
【5年後の公債費と20年後の公債費】



公債費が額・比率ともに減少傾向にあることは第一章で説明しました。

区では、学校や公園などの施設建設費や国の制度減税への対応(P13参照)として、毎年50億円程度の新たな借金をしてきました。下表は、今後も計画的に毎年50億円ほど新たな借入れをするとした場合の借金の返済(公債費)と公債費比率の見込みです。

毎年50億円借入れた場合の公債費の推計 (P41資料 11参照) (億円) (%)



上表のように、借金の返済が減っていくことは良いことです。しかし借金の返済が終わっていくということは、その借入れをした施設が古くなったということを意味します。区の借金は、主に20年返済プランですので、築後20年以上を経過した施設が増えていくことを表します。このことについては、P25で詳しくお話しします。

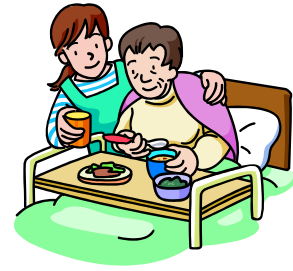
未来の天気予報

- ・ 人件費 職員は減るが、退職金が増加する。
- ・ 公債費 順調に減っていく が…



【5年後の扶助費と20年後の扶助費】

今まで急増を続けてきた扶助費ですが、ここではつぎのように推移するものとしました。



【前提条件】

(共通事項) 現状のサービス内容を今後も継続して行う前提で推計

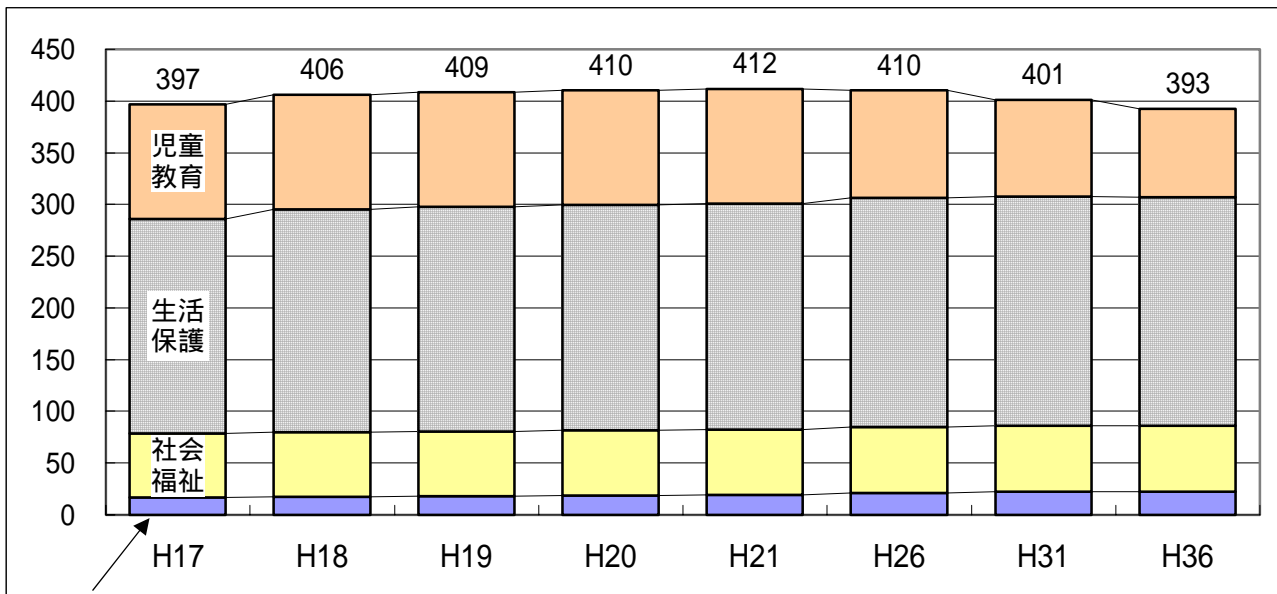
高齢者福祉 高齢者の増加により、高齢者人口の伸びと同率で推移

社会福祉 主に障害者の方を対象とするため、人口の伸びと同率で推移

生活保護 平成18年度までは中期実施計画により3～4%増加、その後は人口の伸びと同率で推移（昭和58年～平成15年の20年間では、2.24倍に増加していますが、ここでは人口の伸び率を用いました。）

児童・教育 児童人口の伸びと同率で推移

(億円) 扶助費の推計 (P42 資料 12 参照)



高齢者福祉

ここ数年急増を続けてきた扶助費ですが、今後もなかなか減らないことが予想されます。

未来の天気予報 ~ 扶助費 ~

なかなか減らない。



③ 施設の改修・改築費

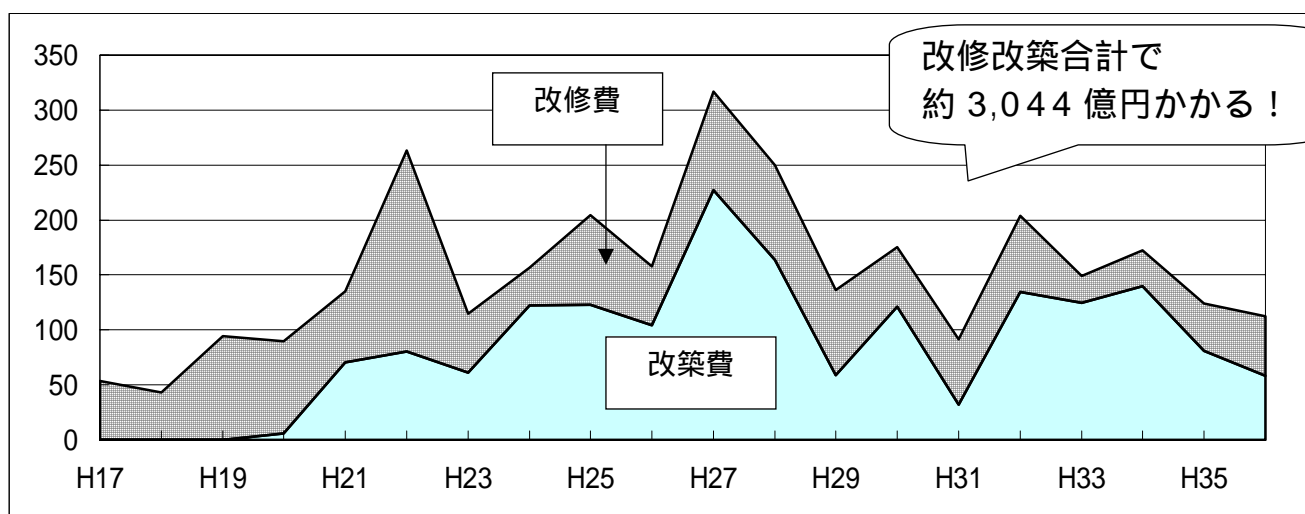


今まで区は、社会基盤の整備の遅れを改善するために、急ピッチで整備を行ってきました。この昭和40年代から50年代に建設した施設が、これから一斉に大規模な改修や建替（改築）の時期を迎えます。

施設の改修・改築費が今後、下記のように大きな負担となってきます。

施設の改修や改築費の推計（P42資料 13参照）

(億円)



建物は、いつかは大規模な改修や建替（改築）が必要となります。しかしながら、その時期が、一時に重なることが問題なのです。

区では、平成16年7月に「施設白書」を作成し、今後20年間のコストの総額について明らかにしました。また、平成16～17年の2か年度をかけて、区内部に設置した「施設再編・改修等検討委員会」において、適正配置・再編方針を作成し、さらにその方針により存続することとなった施設の改修・改築計画を作成します。

未来の天気予報 ～ 施設改修・改築 ～

今後発生してくる大きな負担です。

